

みんなで調べよう

なごやのヒートアイランド 調査結果

全国的に有名な名古屋の暑さをちょっとだけ和らげるため、
緑のカーテン、すだれや断熱シートの効果をご家庭で調べる
温度測定を実施しました。

1

測定の 概要

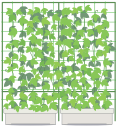
それぞれのご家庭で、

平成27年8月22日(土)と23日(日)の正午に

- ・ゴーヤを育てて作った緑のカーテンの表と裏
- ・すだれまたは断熱シートを設置した場合、していない場合
の温度を計測していただきました。

2

測定の結果 (平均値)

		8月22日(土) 概ねくもり	8月23日(日) 概ね晴れ
緑のカーテン  100戸	緑のカーテンの表	31.4℃	34.4℃
	緑のカーテンの裏	29.9℃	32.0℃
	温度差	1.5℃ ※最大7℃の温度差	2.4℃ ※最大8.4℃の温度差
すだれ  31戸	すだれの表	31.7℃	34.2℃
	すだれの裏	31.0℃	32.5℃
	温度差	0.7℃ ※最大4℃の温度差	1.7℃ ※最大5℃の温度差
断熱シート  34戸	シートを貼っていない窓の内側	31.9℃	34.0℃
	シートを貼った窓の内側	31.1℃	32.8℃
	温度差	0.8℃ ※最大3.7℃の温度差	1.2℃ ※最大3.8℃の温度差

緑のカーテン、すだれ、断熱シートいずれも温度が下がり、一定の効果が表れました。
特に緑のカーテンでは、葉の蒸散作用により温度差が広がりました。
皆さんもこれらの涼しく過ごす工夫にチャレンジしてみよう!!

3

緑のカーテン の効果

- 日陰を作って日差しをさえぎり、室温の上昇を抑えるので、クーラーの設定温度を下げなくても涼しくなる!
- 建物に直接日光が当たるのを防ぎ、さらに葉の蒸散作用が熱を逃がすため、建物温度の上昇を抑える!

緑のカーテンを設置すれば、省エネ、ヒートアイランド緩和、
CO₂削減になり、地球温暖化の防止、生物多様性の保全につながります!

レッツトライ!

緑のカーテンの作り方

緑のカーテンに使う植物は、ぐんぐん生長し、栽培も簡単なゴーヤやアサガオなどのつる性植物が最適。ヨシズと同じように日陰を作ってくれます。ここではゴーヤの作り方を紹介します。

ゴーヤ



用意するもの

全て園芸店やホームセンターなどで入手できます。

種

3月ぐらいから店頭に並びます。



苗

4月から6月にかけて販売されます。



土(培養土)

植物に合ったものを選びましょう。



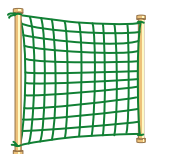
肥料

緑のカーテンを大きく育てるために必要。



ネット

設置する場所に適したものを選びましょう。支柱が必要な時は合わせて購入を。



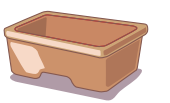
ビニールポット

種まきに使用します。



プランター

なるべく容量の大きいものを選びましょう。



鉢底石

プランターの底に敷きます。根が枯れるのを防いでくれます。



START

STEP 1

土を作る

小粒の赤玉土と腐葉土を6対4の割合で混ぜ、肥料を追加して土は完成。深さ30センチほどのプランターに入れます。土は市販の培養土を使ってもOKです。



STEP 2

種をまく

種は土にまく前、ひと晩水につけた後、ビニールポットに2〜3粒まきます。種が隠れるほど土をかぶせ、水をかけましょう。水やりは毎日してください。

※初めての人は種まきの工程をとばし、苗植えからはじめたほうが簡単です。

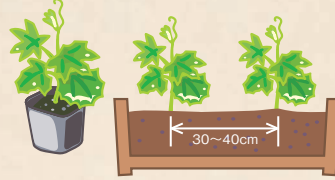


ゴーヤの種は先端をカットしましょう。

STEP 3

苗を植える

ひとつのプランターに2株が目安。植え付けの間隔は30センチ程度です。日当たりと風通しのよい場所で栽培しましょう。

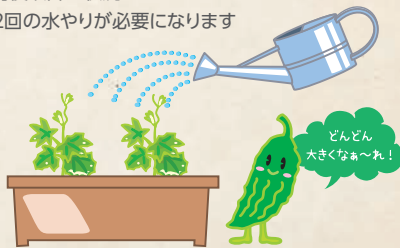


STEP 4

水をやる

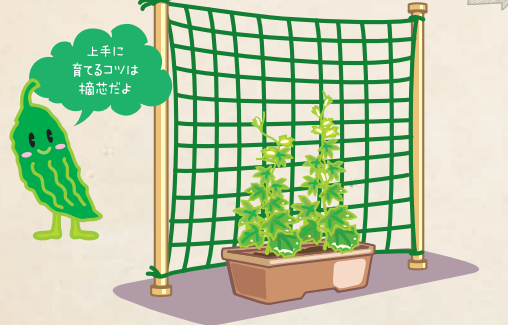
苗の植え付け直後は底から水が抜けるほどたっぷりと、2〜4週間は土の表面が乾いたらたっぷりと、1カ月後からは1日1回たっぷりと、水やりをしましょう。

※1カ月後以降も状況によって1日2回の水やりが必要になります



ネットを張る

つるが伸び始めたら、ネットの準備を。グラグラしないようピンと張りましょう。上手に巻き付かない時は、ひもでつるとネットを結び、手助けしてあげてください。



上手に育てるコツは、摘芯だよ

STEP 6

摘芯(てましん)する

葉が5〜6枚になったら本づるの先端を摘みましょう。これを「摘芯」といいます。摘芯することで子づるや孫づるに雌花が咲きやすくなります。



STEP 7

実を収穫する

夏になるときれいな花を咲かせます。また、雌花には実がなり結実して2〜3週間でおいしくいただけます。



雌花

STEP 8

種を取る

涼しくなってきたら、種を取り、風通しのよい冷暗所で乾かします。乾いたら手のひらですっとこすって、汚れを落としましょう。保管しておいて、次の年は種から育ててみては。

